



The World Games
2022 BIRMINGHAM, USA



The World Games

2022 Birmingham, USA

July 7 - 17, 2022



公益社団法人 日本アメリカンフットボール協会



The World Games 2022 大会

- 1.大会名称：ワールドゲームズ 2022 バーミンガム大会
- 2.主 催：国際ワールドゲームズ協会
(IWGA=International World Games Association)
- 3.日 時：2022年7月7日～17日
- 4.開 催 地：アメリカ合衆国 アラバマ州 バーミンガム市
- 5.競技種目：正式競技 29 種目、公開競技 5 競技（フラッグフットボールは公開競技）
- 6.公式 HP：<https://twg2022.com/>
- 7.備 考：11 回目の開催を迎えた今大会はコロナ禍での開催となりましたが、23 会場で 34 競技 58 種目が実施され、99 の国・地域から 3,457 名のトップアスリートが 223 個の金メダルを目指し、連日熱戦が繰り広げられ、375,000 人も観衆が世界最高峰のプレーや演技に魅了された。日本からは 21 競技（公式競技 17、公開競技 4）に 138 名のアスリートが熱戦の舞台に挑み、日本としては過去最高の 33 個のメダルを獲得するなど、大変目覚ましい活躍を挙げた。
※メダル獲得数は世界第 6 位（前回 2017 年は 7 位）

Flag Football 競技大会概要

- 1.競技日程：7月10日～12日 予選リーグ
7月13日 準決勝
7月14日 決勝、順位決定戦
- 2.競技会場：リージョン・フィールド・スタジアム
- 3.出 場 国：【男子】アメリカ、メキシコ、パナマ、イタリア、フランス、オーストリア、デンマーク、ドイツ
【女子】アメリカ、メキシコ、オーストリア、ブラジル、パナマ、日本、フランス、イタリア
- 4.備 考：国際アメリカンフットボール連盟(IFAF)および USA の NFL (National Football League)の協力により、フラッグフットボールが「ワールドゲームズ 2022」の公開種目とし、IWGA 総会(2022年11月6日開催)で正式決定された。
※IWGA：International World Games Association



◇The World Games 2022 日本女子代表 Roster

			
1 佐藤 由樹	4 佐伯 涼香	5 金谷明咲妃	7 近江 祐璃夏
C/LB	LB	DB	WR/LB
Z、アイリス	HYPERION 東京	関西大学 Tailers	無所属
慶應義塾大学	慶應義塾大学 (在)	関西大学 (在)	立命館大学
			
9 中畑 友里	10 磐田 千紘	12 目黒 七星	14 北崎 あかり
WR	QB	QB	R
宝塚ポリス	HYPERION 東京	FFFC 川崎マロンティアーズ	HYPERION 東京
大坂医科薬科大 (在)	慶應義塾大学 (在)	成城大学 (在)	立教大学 (在)
			
17 中澤 泰子	18 三宅 萌	65 辰野 汐里	99 加藤 純奈
WR・C/DB	WR	DB	C
FFFC 川崎マロンティアーズ	虹翔∞ (にじかけるえいと)	無所属	HYPERION 東京
成城大学	武庫川女子大学	成城大学	慶應義塾大学

◇The World Games 2022 Staff

			
監督	オフェンス コーチ	アシスタント コーチ	GM
兼安 祥二	杉田 英司	津金 智子	桑原 昂司
FFFC 川崎フロンティアーズ	FFFC 川崎フロンティアーズ	FFFC 川崎マロンティアーズ	リバーサイドギャンブラーズ市川
			
トレーナー	映像撮影スタッフ		
鈴木 のぞみ	杉田 澄名		

◇大会関係者

役職	氏名	所属
IFAF 理事	輿 亮	公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
審判員	根岸 作力	関東審判部 (FOA-E)
審判員	平澤 幸一郎	関東審判部 (FOA-E)

◇予選 Group 戦績

PRELIMINARY ROUND - GROUP A - STANDINGS

Rank	Name	Country	Games				Total Points			Points	USA	PAN	AUT	FRA
			Played	Won	Tie	Lost	For	Against	Diff					
1	UNITED STATES OF AMERICA	USA	3	3	0	0	97	59	38	6				
2	PANAMA	PAN	3	2	0	1	93	56	37	4	25:31		26:19	42:6
3	AUSTRIA	AUT	3	1	0	2	80	78	2	2	21:27	19:26		40:25
4	FRANCE	FRA	3	0	0	3	44	121	-77	0	13:39	6:42	25:40	

PRELIMINARY ROUND - GROUP B - STANDINGS

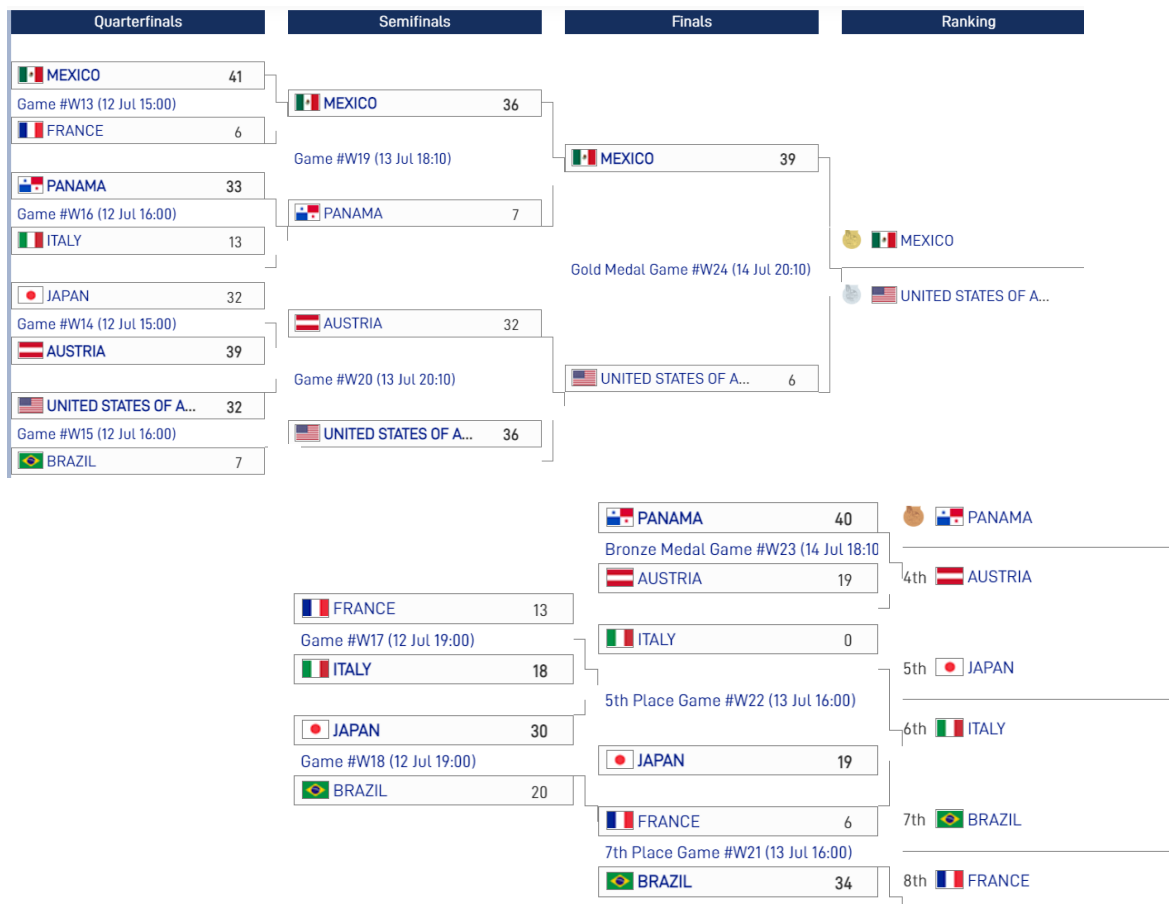
Rank	Name	Country	Games				Total Points			Points	MEX	JPN	ITA	BRA	
			Played	Won	Tie	Lost	For	Against	Diff						
1	MEXICO	MEX	3	3	0	0	125	19	106	6			34:13	49:0	42:6
2	JAPAN	JPN	3	2	0	1	57	68	-11	4	13:34		19:14	25:20	
3	ITALY	ITA	3	1	0	2	39	87	-48	2	0:49	14:19		25:19	
4	BRAZIL	BRA	3	0	0	3	45	92	-47	0	6:42	20:25	19:25		

◇最終順位

FINAL RANKING

Rank	Name	Country	Played	Won	Tie	Lost
1	MEXICO	MEX	6	6	0	0
2	UNITED STATES OF AMERICA	USA	6	5	0	1
3	PANAMA	PAN	6	4	0	2
4	AUSTRIA	AUT	6	2	0	4
5	JAPAN	JPN	6	4	0	2
6	ITALY	ITA	6	2	0	4
7	BRAZIL	BRA	6	1	0	5
8	FRANCE	FRA	6	0	0	6

◇決勝トーナメント&順位決定戦



◇Day1:2022年7月10日(日)ゲームレポート

JAPN 13 vs MEXICO

予選 B ブロック所属の女子日本代表は、初戦でメキシコと対戦。13 対 34 の敗戦を喫したが、昨年 12 月の IFAF 世界選手権 2 位、直近の試合では世界選手権王者の米国を破っている強豪を相手に随所に好プレーを見せた。

コイントスに勝った日本は後半の選択権を選んで守備から開始。開始早々、メキシコ QB ディアナ・フロレスの放ったロングパスを DB 辰野汐里が見事にカット。しかし、メキシコ C コンテラス・シルビアに TD パス、トライも WR モニカ・ランセルへのパスを決められて 7 点の先行を許す。



しかし、メキシコの 2 回目の攻撃機会は、第 3 ダウンロングの状況で DB 金谷明咲妃がロングパスをカット。第 4 ダウンのヒッチからのダブルパスも DB 中澤奏子がカットして得点を阻止した。

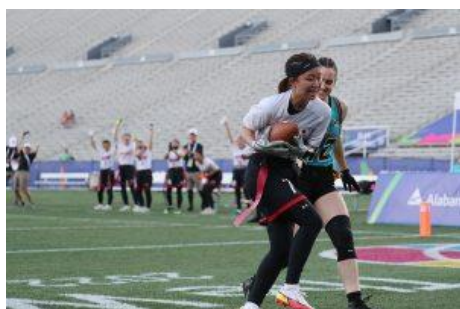
日本はこの直後の攻撃で QB 磐田千紘が C 佐藤由樹へのロングパスを決めて一気にハーフライン 1 ヤードに進むと、再び佐藤へのパスでシリーズを更新。そして、コーナーのルートをとった佐藤への TD パスを決めた。しかし、トライのパスはインターセプトを喫して 1 点を追う展開になった。

次のメキシコの攻撃も第 4 ダウンのパスを DB 金谷がカットして阻止したが、QB 磐田から WR 中澤へのロングパスをインターセプトされてモメンタムを掴むことができず。メキシコは WR ランセルへの TD パスで加点。6 対 14 となった。

前半残り 2 分 53 秒で回ってきた攻撃機会に投入された QB 目黒七星は第 4 ダウンを WR 近江佑璃夏へのパスで突破。さらに WR 中畑友里へのパスを決めて前進しゴール前 7 ヤードに迫った。しかし、第 4 ダウンの TD を狙ったパスをインターセプトされて得点ならず。メキシコは残り前半残り 10 秒で WR パメラ・レイエスのラン・アフター・キャッチで加点し、6 対 21 の折返しとなった。



日本の攻撃から始まった後半、最初の攻撃機会はシリーズを更新できず。QB セリア・シルバを投入したメキシコに 1TD 追加を許す。日本は QB 磐田から WR 近江への 2 度のパスで前進。第 3 ダウンに C 加藤純奈へのパスを決めてシリーズを更新。さらに WR 三宅萌のパスで前進するがエンドゾーンには届かず。この後にメキシコに 1 TD (トライ失敗) を追加され、6 対 34 とされた。しかし、日本は最後まで奮闘。WR 三宅萌が再三のビッグゲインを見せてエンドゾーンを目指す。守備も LB 佐伯涼香の好フラッグプルによって、メキシコを第 4 ダウンに追い込み追加点を許さず。終了間際には WR 三宅への 2 度のパスによるビッグゲインでゴール前に迫り、終了 45 秒前に WR 近江へのプレーアクションパスで TD。トライも WR 中畑へのパスが成功して一矢報いた。



◇Day2 : 2022年7月11日(月) 予選Bグループ ゲームレポート
JAPN 19 vs 14 ITALY

イタリア戦は19対14の辛勝。世界ランクでは日本の6位に対し、イタリアは8位と格下、『マスト・ウィン』の相手だったが、思わぬ苦戦を強いられた。

コイントスに勝った日本は後半の選択権を選んだ。イタリアの最初の攻撃機会にシリーズ更新許さなかった日本は、QB 磐田千紘からパスを受けたWR 三宅萌がラン・アフター・キャッチでシリーズ更新。ゴール前13ヤードに進んでC 佐藤由樹の先制TDにつなげた(1点トライは失敗)。



イタリアの2回目の攻撃も、LB 近江佑璃夏の2連続フラッグプルと、DB 中澤奏子のパスカットでシリーズ更新を阻止。しかし、日本も反則でシリーズ更新できず。ここまでイタリアにシリーズ更新を許していなかった守備も、ランに苦戦し



はじめた。日本の反則もありゴール前6ヤードに迫られ、イタリアにTDと、トライの1点コンバージョンの成功を許し6対7と逆転されてしまう。

日本は次の攻撃機会もシリーズ更新ならず。反対に勢いが出てきたイタリアは再びゴール前に迫って得点のチャンスを迎えた。しかし、第3ダウン、パスを試みたイタリアのQBを、ラッシャー北崎あかりが急襲しQBサックに仕留めてゴールから13ヤードまで押し下げた。第4ダウンのプレーも北崎が前進を許さなかった。

ピンチをしのいだ守備に攻撃も応えた。QB 磐田から鋭いロングパスを受けたWR 三宅萌が、ジャックルしたボールをスピードを落とさずに確保すると、そのままエンドゾーンを駆け抜けてTD(トライ失敗)。12対7と再びリードを奪った。



後半は日本の攻撃からだったが、シリーズ更新できず。反対にイタリア攻撃にTDと1点コンバージョンを決められて12対14と再び2点を追う展開になった。



日本はQBに目黒七星を投入。目黒の2度目の攻撃シリーズは、C 佐藤へのパスでシリーズを更新。さらにWR 中畑友里へのパスでゴール前に迫り、ワイド・オープンになったWR 中澤へのTDパスを決めて再逆転に成功。トライの1点コンバージョンもタイト体型から左右真ん中にレシーバーを放って守備を引き寄せ、中央で完全にフリーになったWR 近江へのパスを決めて、19対14とした。近江は守備でも好フラッグプルを随所に見せる活躍だった。

◇Day2 : 2022年7月11日(月) 予選Bグループ ゲームレポート
JAPN 25 vs 20 BRAZIL

女子日本代表は、ブラジルとブロック2位を懸けて対戦。終了プレーで逆転 TD を挙げる接戦の末、25 対 20 で勝利した。

メダル獲得を目標にする女子日本代表にとって、世界ランク4位、昨年12月世界選手権でも14対20と接戦の末に敗戦を喫したブラジルは、乗り越えなければならない第一関門だった。

序盤は互いに守備が奮闘し、0対0の緊迫した状況が続いた。先手をとったのはブラジルだった。短いパスをつないだブラジルがゴール前に迫り、日本との身長差を突いた高いパスで先制 TD (トライ失敗) を挙げた。



日本はこの直後に QB 磐田千紘が WR 近江佑璃夏へ立て続けにパスを決めて前進。WR 中畑友里へのパスでシリーズ更新、このシリーズは WR 近江への同点 TD パス (トライ失敗) を決めて、前半終了間際に6対6の同点に追いつき前半を終了した。

後半最初の攻撃では、WR 近江への2度のパスでシリーズを更新し、ゴール前13ヤードに進行。しかし、反則で一旦は自陣まで下がったが、磐田から C 佐藤由樹へのロングパスで TD。トライの1点コンバージョンも近江へのパスが決まって13対6とリードすることに成功する。

しかし、ブラジルも日本の守備選手が届かない高いパスを柱に再び TD (トライ1点成功)、13対13の同点となった。以降、ブラジルはランを織り交ぜた攻撃を展開。しかし、ここで日本守備にビッグプレーが生まれた。ブラジルのボールキャリアがランに出たところから突然投げたパスを、目前に迫っていた DB 金谷明咲妃がインターセプト。敵陣21ヤードの好位置を得た日本は、QB 磐田が佐藤、近江にパスを決め、WR 三宅への3ヤード TD パスにつなげた (トライ失敗)。



19対13とした日本だが、直後にブラジルはロングパスを決めて同点 TD を上げる。しかも1ポイントコンバージョンも成功。土壇場で19対20と1点リードを許してしまう。残り時間は1分24秒だった。フラッグフットボールは残り2分は時計は止まるものの、すべてレディ・フォー・プレーで計時が開始されるため、時間をコントロールするのがとてもむずかしい。しかし、QB 磐田は近江、中畑、近江と立て続けにサイドラインパターンのパスを決めてシリーズを更新。反則で一旦は自



陣に下がったところから、QB 磐田がターゲットを冷静に探して、右サイドライン際を走る C 佐藤にパスを放つと、佐藤はサイドラインにギリギリ足を残して捕球し、ゴール前9ヤードに進む。残り時間は4秒。文字通り最後のプレーで、QB 磐田は左フラットに出た佐藤がワイドオープンになったのを見つけるとしっかり胸にパスを送り込んで逆転 TD となった。

本来、佐藤はもっと浅いルートをとるプレーのデザインだったが、状況に応じてエンドゾーンに届くようにルートを変更。さらに、そのゾーンをカバーする守備選手を、WR 中畑がしっかりと引きつけたことによって佐藤がワイド・オープン

になった。役割の徹底と機転、そして実行力が生んだ決勝 TD だった。以上の結果、B ブロック 2 位となった日本は、準決勝進出を懸けて A ブロック 3 位のオーストリアと対戦する。

◇Day3 : 2022 年 7 月 12 日 (火) 準々決勝ゲームレポート
JAPN 32 vs 39 AUSTRIA

女子日本代表はオーストリアと対戦。昨年 12 月の世界選手権で 3 位となった強豪を相手に 32 対 39 と僅かに及ばなかったが、対等に点を取り合う成長の証を見せた。

攻撃全シリーズで TD を挙げたオーストリアに対し、日本は 8 シリーズ中 5 回のシリーズで TD を挙げた。得点できなかったのは最初と 2 回目のシリーズ、前半終了間際に回ってきた攻撃機会にロングパスを捕球した C 佐藤由樹がエンドゾーンに僅かに届かなかった 3 回のみだった。

序盤 2 シリーズで得点を挙げられなかった日本だが、流れを変えたのは QB 目黒七星だった。0 対 12 の状況で登場すると、WR 中畑友里にロングパスを決めてシリーズを更新。C 佐藤由樹のラン・アフター・キャッチでゴールに迫り、佐藤への TD パスを決めた。



後半 19 対 32 と 2 ポゼッション差になった直後にも登場した目黒は、WR 三宅萌が前に上がった守備の裏をとった瞬間に絶妙なタイミングでパスを決めて 1 プレーで TD。1 ポゼッション差で食い下がる展開を作った。

もう一人、活躍が光ったのが WR 中畑だった。これまでの試合も確実な捕球でドライブの中核を担ってきた中畑だが、13 対 25 で迎えた後半最初の攻撃機会に、反則で下がったところから TD パスをレシーブ。さらに三宅の

TD 後の 1 ポイント・コンバージョンの時にも、反則で下がったところからのパス捕球によってコンバージョンを成功させた。

中畑は昨年 12 月の世界選手権出場時には、パス捕球に課題があり試合出場機会がほとんどなかった。しかし、今大会に向けて劇的な成長を遂げて先発メンバーとなった。二番手 QB 目黒と共にフラッグ女子日本代表の成長を象徴する存在だ。

この結果日本はブラジル、イタリア、フランスとの 5~8 位決定戦に臨むことが決まった。



◇Day3 : 2022年7月12日(火) 5位~8位順位決定戦 ゲームレポート
JAPN 30 vs 20 BRAZIL

第一ラウンドの相手はブラジル。前日、終了プレーで劇的な逆転勝利をしたとはいえ、実力の拮抗した相手だ。しかも、試合開始は炎天下の中、強豪オーストリアと対等のシューティングアウトを演じてから約3時間後。疲労はピークに達していた。しかし、前半は12対14とリードを許したものの、後半に逆転。一度掴んだモメンタムを離さずに30対20の快勝につなげた。



序盤はこれまで正確なキャッチとアグレッシブなラン・アフター・キャッチで日本攻撃の核となっていたC佐藤由樹がドロップを繰り返すなど、明らかに疲労の色がにじみ出ていた。しかし、そんな状況を覆したのが若手メンバーたちだった。



を覆したのが若手メンバーたちだった。

6対14で迎えた前半終了間際にはオーストリア戦で大活躍を演じたQB目黒七星を起用。エースQB磐田千紘をWR起用する布陣を敷き、目黒から磐田へのパスでシリーズ更新とTDを挙げた。

目黒は後半最初の攻撃機会にも、アウト&アップのルートで見事にブラジル守備のカバーを振り切ったWR近江佑璃夏に絶妙なパスを送り込んで逆転TDを演出した。

守備は負傷者でDBの数が足りない状況だったが、LBの人員を増やして対抗。これまで交代出場だったLB佐伯涼香がパスカット、インターセプトと大活躍を演じて、メキシコの攻撃を断ち切った。

もう一方の順位決定戦第一ラウンドはイタリアがフランスに18対13で勝利。日本は7月13日、5位決定戦でイタリアと再び対戦する。

◇Day4 : 2022年7月13日(水) 5位決定戦 ゲームレポート
JAPN 19 vs 0 ITALY

女子日本代表はイタリアとの5位決定戦に臨み、19対0の完封勝利で5位を獲得。昨年12月のIFAF世界選手権では6位だったが、順位を一つ上げる結果を残した。

前日まで3日で5試合、その内3試合は炎天下での試合だったため、選手たちのコンディションは決して万全といえる状況ではなかった。しかも相手はブロック戦で苦戦をしいられたイタリア。ランクは下とはいえ決して気が抜ける相手ではなかった。



特にDBは出場可能なメンバーが辰野汐里のみという状態だった。そこで、エースQB磐田千紘をWRとDBで起用し、QBは調子を上げてきた目黒七星を先発起用した。また、予選時には交代出場だったLB佐伯涼香をラッシャーとしてフル起用した。

立ち上がりから両チーム共に守備が奮闘し0対0のまま。佐伯のプレッシャーは再三イタリアのパスの精度を狂わせた。そして、前半残り2分を切って日本陣に攻め入られたピンチをDB辰野がインターセプトでしのいで、残り1分22秒で



攻撃権を獲得。QB 目黒は C 佐藤由樹、WR 三宅萌、WR 磐田千紘にパスを決めて前進。イタリアの反則も手伝ってシリーズを更新すると、佐藤へのコーナーへのパスで TD（トライ失敗）。6 対 0 とリードしての折返しに成功した。

後半は LB 近江佑璃夏が正確なフラッグ・プルでイタリアのシリーズ更新を阻止。攻撃は C 加藤純奈の 2 連続パス捕球でシリーズを更新。WR 近江へのパスで前進すると、WR 中畑友里がエンドゾーン右手前隅に投げら

れたパスを好捕球して TD。近江へのパスによるトライも決まって 13 対 0 とリードを広げた。直後のイタリアの攻撃にはシリーズ更新を許したものの、LB 近江がインターセプトで得点を阻止。ミッドフィールドからの攻撃起点を獲得すると、中畑、磐田へのパスで前進し、佐藤へのプレーアクションパスで TD（トライ失敗）。直後のイタリアの攻撃を DB 磐田がインターセプトして試合を決めた。

昨年 12 月の IFAF 世界選手権の 6 位から順位を一つ上げての 5 位。



しかも、予選で苦戦した相手に対して、元々控えだったメンバーが大活躍して完勝した価値のあるステップアップだった。

同日、TWG を視察に訪れていた NFL フットボールオペレーション担当のトイ・ビンセント上級副社長と IFAF のピエール・トロシエ会長は、2028 年ロサンゼルス五輪でのフラッグフットボールの採用を共同で目指していく共同声明『Vision 28』を発表。ビンセント氏は NFL 選手の米国代表参加も示唆した。



photo&text Hirobumi.Kamimura(JAFA/HUDDLE MAGAZINE)



ご声援、ありがとうございました。



公益社団法人 日本アメリカンフットボール協会

